

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2793200128		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家佐太中町ユニット1		
所在地	大阪府守口市佐太中町7丁目10-20		
自己評価作成日	令和元年6月10日	評価結果市町村受理日	令和元年11月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2793200128-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和元年7月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人様が出来る事を維持し、何が出来るか、出来る事を増やしを考え生活リハビリとして洗濯や炊事・掃除を中心にしています。洗濯においては、屋上に干しに行き、取り込み・たたみと職員と共にしています。1日3回のフロアの掃除モップかけをし、歩行が無理な方は自席まわりを掛けられています。炊事においても包丁を使用されたり調理全般を行っておられます。月2回カラココ体操を実施しており、地域の方も参加して頂いています。散歩や外出も気分転換と下肢筋力低下を防ぐ為、可能な限りしています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは利用者本位の視点を大切に、日々の中で食事の支度や掃除、洗濯物をたたむなど利用者のできる事や得意な事に携わってもらい生活リハビリを兼ねながら充実した暮らしになるよう支援し、意思の疎通が困難な方でもその行動や感情の原因を探り、家族のように安心してもらえるような関わりを心がけることで笑顔が増え穏やかに過ごせるようになる等一人ひとりが安心して暮らせるよう支援に努めています。また年間行事の遠足や花火大会等の他、日々の散歩や買い物、役所等への職員の用事にも一緒に出かけ、利用者がホームの中だけで過ごす事が無いよう支援しています。また地域包括支援センターから声掛けがあり、社会福祉協議会と協力し月2回地域に向けて開いているカラココ体操は徐々に参加者も増えており、地域に向けた取り組みも始まっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は相談室・スタッフルーム・事務所に掲示しています。	法人理念を基に、人を大事にし人を育てるなどの思いを込めた施設理念を作成し、合わせて具体的な行動内容を示し、職員の目につきやすい更衣室に掲示し意識できるようにしています。研修や会議時に一人ひとりに合ったコミュニケーション、挨拶や笑顔での対応の大切さを職員に伝え実践に繋げています。また職員の入職時には共有に向けて理念に込められた思いを伝えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事には参加し、夏祭り・秋祭り・盆踊り等ご利用者様と参加しています。	町内会に加入し近隣の神社の掃除に利用者と一緒に参加したり、散歩や買い物に行った際などに会った方と挨拶を交わしています。また三味線やフラダンス、銭太鼓などのボランティアの来訪の他、月2回実施しているカラコロ体操は地域に案内文を配布し参加を得たり、地域の夏祭りに声をかけてもらい参加を予定するなど地域交流が更に広がるよう取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買い物と外出することにより認知症に対する理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各方面の関係の方からの意見などはスタッフに伝達・話し合いを実践しています。	会議は複数の家族や地域包括支援センター職員の参加の下開催しています。ホームの状況や行事、研修等の報告、写真を見てもらい利用者の様子や暮らしぶり等を報告し、身体拘束適正化委員会の趣旨の説明や事例検討等も行い意見交換しています。機能低下を心配する家族の意見を受けて外出の様子を写真に撮り報告する等サービスに反映できるよう取り組んでいます。	地域の方の参加が難しい状況となっておりますが、町会関係者や地域の方などの参加が得られるよう引き続き働きかけられることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	くすのき連合・市役所高齢介護課に相談しています。	介護保険制度や分らない事があれば窓口に出向いたり、電話で随時相談しアドバイスをしています。また管理者は市役所の場所を借りて定期的に開かれるグループホーム連絡会への参加や運営推進会議の議事録はその都度窓口へ提出し、連携が図れるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年研修にて必須項目の為、受講・伝達研修し周知しています。	年に2回程度身体拘束に関する研修を行う他、虐待や接遇などの研修の中でも時に動画を用いて職員の理解が深まるよう取り組んでいます。ユニットは施錠していますが外出希望の方には付き添い散歩や玄関先に出るなど閉塞感の無いよう支援しています。また安全に付き添う為に一時的にセンサーマットを使用する際は家族の了解を得ています。	

グループホームたのしい家佐太中町ユニット1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年研修にて必須項目の為、受講・伝達研修し周知しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度が詳しく分かる外部研修・施設内での会議にて全スタッフへ周知し参加を促していきたいと思えます。実際に成年後見人制度をされておられる方もおられます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、ゆっくり説明ご家族様に確認しながら質問や疑問があれば、いつでも説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱設置し意見を頂けるように、運営推進会議などでも意見を頂戴しています。	利用者の希望は日々の中で聴き、食べたいメニューを献立に取り入れたり外食に出かけています。家族へは毎月日常の様子や行事などの写真を添えて報告し、面会時や運営推進会議、満足度調査などで意見や要望を聞いています。家族の意見を受けて医師に相談し往診時の内容を詳しく報告するよう改善したり、職員の電話対応マニュアルを作成するなど意見を反映した取り組みに繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の施設会議で意見を聞いています。	職員の意見や提案は月に1度の施設会議や年に1度の個別面談などの他、ケアに関する提案などは日々の中で多く出されています。意見を受けてフロア毎の利用者状況に合わせて業務分担や勤務時間を変更したり、ケアに関しては都度話し合っています。また管理者は職員とコミュニケーションを図り意見を出しやすい雰囲気作りに努めると共に職員の様子を見て随時声をかけ話を聞いたり相談に乗っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社による年に一回の従業員満足度調査・キャリア段位制度・コーチング研修などにより、働きやすい職場にしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務体制や人員体制によるが、研修参加に努めています。		

グループホームたのしい家佐太中町ユニット1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は2ヶ月に1度、同市内グループホーム連絡会などの参加、今後は職員を含め事業者の交流を図っていきたいと思います。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の施設見学して頂き、不安や要望などを伺い、納得を得て入所頂けるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前・開始後ご家族様に日常生活の報告をし、関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接でしっかりとお話を伺いご本人様のニーズに応じたサービスが必要かを心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居様同士の関係を大切にし、掃除・洗濯・炊事などを、生活リハビリとして共に行い関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との連絡を密にし、本人様本位の支援ができるように一緒に考えていくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様・知人・親戚関係方の面会に特に制限なく来て頂けるように努めています。居室でゆっくりと過ごして頂きます。	友人や親戚などの来訪時には居室に椅子やお茶などを用意しゆっくり過ごせるよう配慮をしています。家族と共に定期的に親族が集まる食事会に参加したり、馴染みの神社や墓参りなどへ出かける方もおり、身支度などの出かける準備を支援するなど、家族の協力を得ながら馴染みの関係が継続できるよう支援をしています。	

グループホームたのしい家佐太中町ユニット1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関わりを配慮し、孤立せず自然な関わりが出来るよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去以外での契約終了はありませんが、退去の際、何かお困りの事があれば連絡下さいと伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が何を望んでいるのか、コミュニケーションを図り、本人本位の視点たち考え努めている。時にはセンター方式を活用し、その人らしい暮らしが出来るよう職員と話あっている。	入居時に利用者や家族と面談し、暮らしへの意向や入居に至った理由、生活歴や趣味などを聞き、病院などから得られたサマリーの情報なども加味し意向の把握に努めています。日々の中では本人から聞いた料理や神社参りなどの行いたい事を共有したり、思いを伝える事が困難な場合はカンファレンスなどで思いが汲み取れるよう話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様・ご家族様との会話の中から生活歴を聴き取り、職員に情共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を十分観察し、記録や申し送り連絡ノートを活用し、把握できるように周知しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成するにあたって、毎月の会議にてケアプランの確認をしている。	介護計画作成時は本人の思いや来訪時などに確認した家族の意向を下に作成しています。通常は6ヶ月ごとに介護計画を評価し、再アセスメントを行い、毎月の会議の中で職員間で意見を出し合い利用者の現状に合った介護計画となるよう見直しています。必要があれば往診医の意見や診療情報等を参考に介護計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケア記録に記載し申し送りで情報を共有意見交換しています。		

グループホームたのしい家佐太中町ユニット1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物・理美容必要に応じて、柔軟な対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーや郵便局や地域内にある神社には、花や池があり行く機会を増やしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月、第2・4木曜日に在宅診療により支援しています。	入居時にこれまでのかかりつけ医を継続できることを伝えています。かかりつけ医を継続している方には訪問看護記録等を渡し家族が付き添い受診しています。協力医は月2の回往診の他、24時間いつでも相談する事ができ体調が変化した際には往診医に連絡し指示をもらい対応したり、臨時の往診や訪問看護師に来てもらう事もあります。また週に1度の訪問歯科は希望者が対象ですが現在は全員が口腔ケア等を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週金曜日は訪問看護師により支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、管理者・職員お見舞いに行き、病院関係者との関係づくりを密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約でご家族様にはホームの方針とした、看取り介護行っている事を説明しています。	契約時に重度化や終末期に係る指針に沿ってホームの対応を説明しています。看取りに近い支援を経験しており、重度化した場合は医師から家族へ説明が行われ意向を確認し、支援を希望の場合は職員間でも話し合い方針を共有し医師の指示やアドバイスをもらいながら支援をしています。また家族とも連絡を密に取り検査への付き添いなどの協力を得ています。年に1度看取りに関する研修を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様の急変時の対応については、夜間早朝の対応には落ち着いた対応ができるようにしている。		

グループホームたのしい家佐太中町ユニット1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。	年に2回昼夜を想定し消防署の立ち会いを得て消防訓練を行い、火災を想定し通報や初期消火、利用者の避難誘導、水消火器の使用方法などを実施しています。水や食料の備蓄と共に昨年は停電を経験し新たにガスコンロを準備し災害に備えています。また訓練時には近隣に案内を行い、今後は自治会にも働きかけ相談したいと考えています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束・虐待の勉強会を増やすと共に会議などでご利用者様に対して、どのような対応が適切か、話し合いの機会を持ちなどしている。あと声のトーンや強い口調には気をつけています。	接遇マナーやコンプライアンス、認知症などの研修の中で利用者の尊厳やプライバシーを守ること等を学んでいます。日々の中では敬語を用いた言葉掛けを基本にしており、馴れ合いなどの不適切な対応が見られた場合はその都度注意をしています。また希望がある場合は同性介助での対応をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々のご利用者様の状態に合わせて自己決定して頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のご利用者様の生活リズムや好みのレクリエーションを考えたりし、本人らしい生活ができるよう取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々で好まれる洋服やアクセリーをつけておられます。ご家族様にご相談させて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け・食器洗い職員と共に行っています。	業者の献立に沿って食材が届き、利用者は食材を切ったり、野菜の下拵えや盛り付けなどのできる事に携わり一緒に食事作りを行い、検食の職員が利用者と一緒に食事を摂っています。また回転寿司やお好み焼きなどの外食を取り入れたり、サンドイッチやたこ焼き、ゼリーやどら焼きなどのおやつも一緒に作り、利用者が食べる事を楽しめるよう支援をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材提携会社からの管理栄養士のメニューに基づき摂取して頂いています。水分量は1日の摂取量を基に、少ない方は声掛けにて摂取して頂いています。		

グループホームたのしい家佐太中町ユニット1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用者様全員の口腔ケアを行い、職員が付添い仕上げを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来ている部分を減らさないようにし、サインや行動を把握しトイレ誘導を行っています。	日々の記録を参考に一人ひとりの排泄パターンを把握した、生活リズムや排泄のサインなどを職員間で共有し失敗に繋がらないよう支援をしています。日中は全利用者がトイレで排泄しており、夜間の支援や体調などに合わせて個々に合った支援を随時話し合っています。立位の保持や歩行訓練を行ったことで失敗が減り布の下着で過ごせるようになった方もおり自立に向うよう取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から水分摂取量の確保に努めると共に、一人一人の排便状況に応じ、医療機関と連携を取り指示の基、下剤コントロールし対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本はありますが、個々の希望や必要に応じて対応するよう努めています。	入浴は概ね3日に1度午前8時半頃から夕食までの間で希望の時間帯に入れるよう配慮し、一番風呂や回数を増やしたいなどの希望に添っています。一人ずつ湯を入れ替え掃除を行い、好みのシャンプーや洗顔石鹸などを使用したり、季節の柚子や菖蒲湯、入浴剤なども使いながら入浴を楽しめるよう支援をしています。入浴を断る方には声掛けや職員の交代など工夫しながら無理の無いよう支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室・寝具の清潔保持。個々の好みに合わせ気持ちよく休める部屋作りに努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関と連携、往診日には薬剤師も来られ、薬の状況確認し、薬の変更などの場合、全職員に申し送り周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリを中心に掃除・洗濯・炊事を職員と共に行い、その他では外出(買い物や散歩)で気分転換をし個々に合わせた支援をしています。		

グループホームたのしい家佐太中町ユニット1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員同行で散歩や、買い物に行ってます。あと地域の行事盆踊りやお祭りに参加しています。	毎日交代で近隣にある神社などへの散歩や買い物に出かけたり、役所や銀行などの職員の用事の際にも利用者と一緒に行っており、工夫しながら出かける機会を作っています。また初詣や桜の花見、春と秋の遠足では水族館などに出かけたり、えべっさんや天神祭りなどの地域行事にも出かけています。また希望を聞きながら個別に買い物に行ったり、家族と外食などに行く方もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様のお金は事務所金庫に保管しています。必要に応じて嗜好品や日用品をご一緒に行き購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の許可があり、携帯電話をお持ちの方もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感ある折り紙やご自身で作られた小物などで飾りつけし、配慮しております。後掃除は1日3回と心掛けています。	リビングには季節に合わせた七夕飾りなどを利用者と共に作成し季節感のある空間作りをしています。利用者同士の関係を見ながら心地よく過ごせるよう随時テーブルや座席を替えたり、テレビの前にはソファを置きゆっくり寛げる場所も作っています。また日々の換気や空気清浄機を置き、エアコンの風向きにも配慮をしたり、利用者の声も聴きながら過ごしやすいよう室温を調整しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファがあり、くつろがれたり自席にて雑談されたりと、個々で自由にして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が自宅で使われていた家具・写真仏壇などをお持ち込み頂いて、心地よい空間となるように工夫しています。	入居時に馴染みの物を持参してもらおう伝え、筆筒や鏡台などの家具やテレビを持参し家族が過ごしやすいよう配置し、身体状況の変化に合わせて安全に移動できるよう家具の配置を変える事もあります。家族の写真や安心できるぬいぐるみ、神棚や仏壇など大切な物や必要な物を自由に持ってきてもらっています。日々の掃除は関われる方と一緒にいき清潔な空間を保っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア・浴室・トイレには手すりが付いており、生活リハビリを中心に掃除や洗濯・炊事を職員共に行い、安全で自立した生活を送れるように工夫しています。		